

ひび割れ算出システム

特長

- ひび割れ調査自体は従来手法と同じなので、現場へはスケッチ用紙を持ち込むだけです。
- 解析処理には汎用品のスキヤナを用意するだけです。特殊な機材は必要ありません。
- 任意に算出範囲を指定できるので、車線毎の算出も可能です。
- 算出結果の成果品は電子データ(図面:SFX(SFC/P21)・DXF・DWG 計算書:Excelデータ)で作成されます。

★ 処理操作の流れ

< 1 >

PAVE-CADより専用のスケッチ用紙を印刷します。

< 2 >

従来手法と同様に、現場でひび割れ状況をスケッチします。

< 3 >

スケッチ用紙をスキヤナで画像化し、それをPAVE-CADでCAD化(ベクタ化)します。

< 4 >

車線情報を与えるために展開図を作成します。

< 5 >

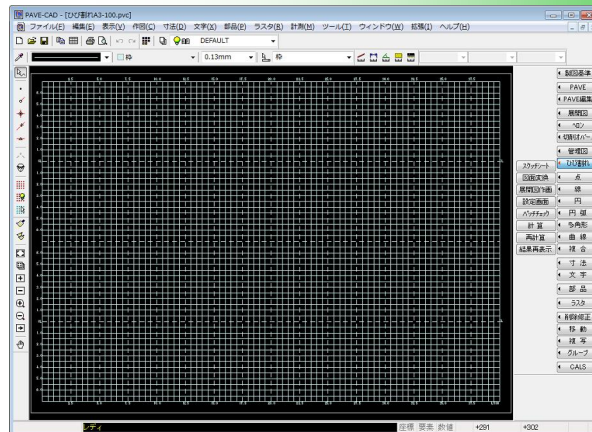
工事情報入力、算出範囲を指定、パッチング指定を行います。

< 6 >

解析処理を開始し、成果品の作成します。

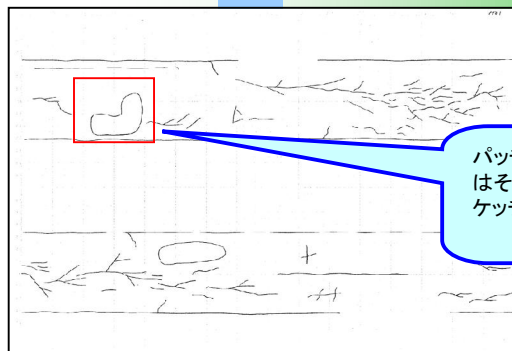
<<出力書類>>

- ・データシート
→ 舗装路面のひび割れ測定
(舗装試験法便覧)準拠
- ・ひび割れ展開図
→ A4 ~ 任意サイズ



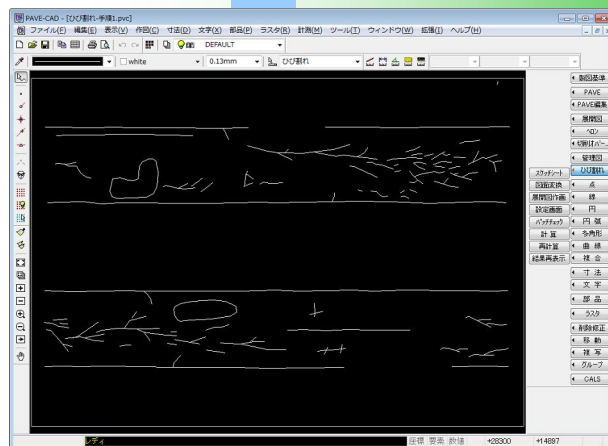
★ スケッチ用紙の印刷

縮尺・用紙ごとに縦横50cmのますを表示したスケッチ用紙を用意しています。



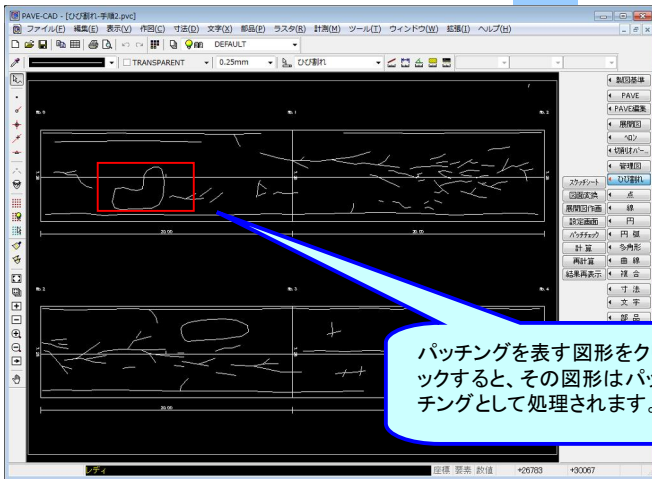
パッチングがある場合はその範囲を囲んでスケッチします。

★ スケッチ用紙のスキヤニング画像



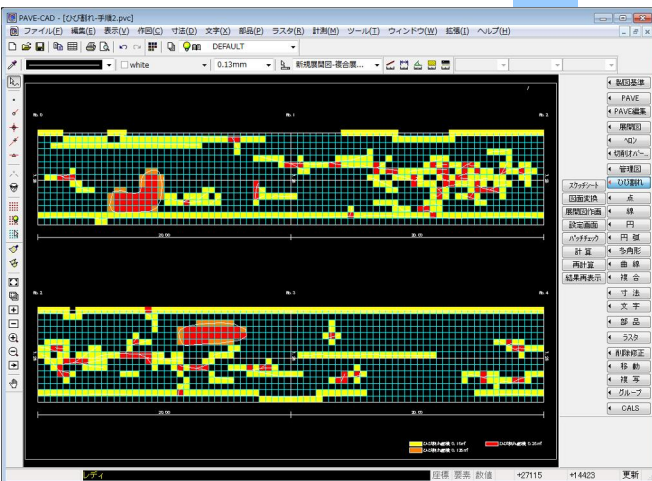
★ スケッチ用紙のCAD化

スキヤニングされた図面をPAVE-CADでCAD化します。



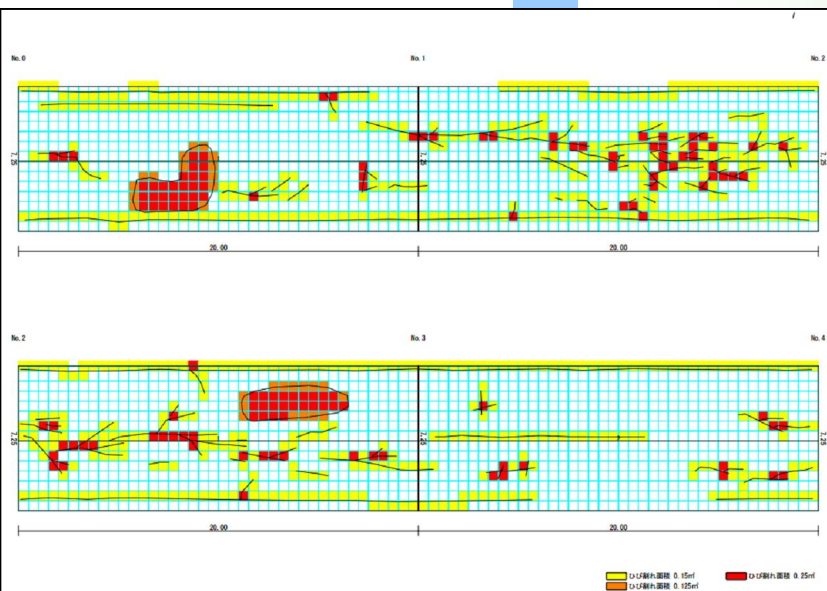
★ **展開図の作画・パッチング指定**

単距離情報・幅員情報を与えるため展開図を作図します。また、パッチング要素を指定します。



★ **算出処理後画面**

ひび割れ本数(1本・2本)やパッチング面積の割合により50cmますを色分けします。



▲ **ひび割れ展開図**

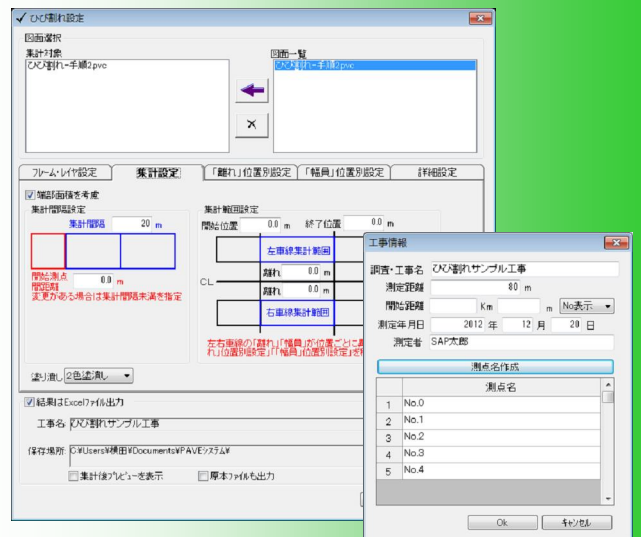
展開図作成

種類	測点名	単距離	左幅員	右幅員	左分路	右分路	面積	接辺	横移動
No.0		3.75	3.50						
1	No.1	20.00	3.75	3.50			145.00		
2	No.2	20.00	3.75	3.50			145.00		

図面名:新規展開図 縮尺: 1/100 総面積: 290.000m²

★ **展開図入力画面**

単距離・幅員を入力して展開図を作画します。



★ **ひびわれ設定画面**

算出範囲の指定(縦断方向・横断方向)や工事情報を指定します

舗装路面のひび割れ測定

調査・工事		測定年月日		試験報告
ひび割れサンプル工事		2012年12月20日		
測定開始	No.0	路面の種類	アスファルト	
測定終了	No.4	測定者: SAP太郎		
測定距離	80 m	測定者	SAP太郎	
ひび割れの集計				
集計開始点	No.0(左)	No.1(左)	No.2(左)	No.3(左)
集計終了点	No.1(左)	No.2(左)	No.3(左)	No.4(左)
ひび割れ 0.5 × 0.5 m	63	80	43	37
1本 0.5 × 0.5 m	7	23	37	39
ひび割れ 0.5 × 0.5 m	6	22	8	4
2本以上 0.5 × 0.5 m			1	
ひび割れ面積 (m ²) ①	11,580	19,570	11,950	10,060
ひび割れ	50 cm			
	25 cm			
長さ	cm			
	cm			
合計ひび割れ長さ (m) ②	3		23	
パッチング	0.125 m ²	4	14	
マス目数	m ²			
パッチング面積 (m ²) ③	1,000		7,500	
対象面積 (m ²) ④	25.0	75.0	75.0	75.0
ひび割れ率 (%)	16.8	26.1	25.0	13.4
ひび割れ率 (%)	ひび割れ面積 / 対象面積			
ひび割れ率 (m/100m ²)	ひび割れ長さ / 対象面積			
備考				

▲ **データシート**